

平成28年度 第1回新宿区文化芸術振興会議（第3期） 議事要旨

■開催日時 平成28年6月23日 午前10時から午前12時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第4委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 乗松好美 松井千輝 大野順二

原口秀夫 大和滋 市川治郎 舟橋香樹（欠席 根本晴美）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く。)

事務局 村上文化観光産業部長 橋本文化観光課長 原文化観光係長 土肥主任

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)から(3)を一括して審議することを確認した。

2 議事(要旨)

- (1) 前回の会議の内容について
資料1-1及び資料1-2に基づき、前回会議(平成28年3月28日開催)の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 「文化芸術振興の重点項目に関する主な取組み」について
資料2に基づき、事務局が説明を行った。
- (3) 新宿区文化芸術振興会議(第3期)の活動報告書(案)について
資料3に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。
- (4) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・新宿フィールドミュージアムは、5年間経過し、横のつながり、実質的な動きが出始めている。また、部会も設けられ、現場の目線から、フィールドミュージアムをどうしていくかという動きが出始めていることも、良いチャンスだと思う。一方で、認知が低いとか、情報発信の仕組みをどうするかとか、ボランティアの仕組みとか、充実のための課題も多々あり、提言としてフィールドミュージアム憲章の制定を掲げたが、憲章のイメージ、中身がまだ十分に議論されていないため、今後、何を本当の狙いとするかを考えていかなければならない。
- ・憲章とする場合、事業名が冠につくのではなく、何か違う形の位置づけや狙いがなければいけないのではないか。何を盛り込むか、区における位置づけや、どのくらいの力を行政内で持つのかを含めて議論していく必要がある。
- ・オリンピックの文化プログラムについて、組織委員会の方向性が7月ぐらいに決まり、組織委員会の公式プログラムは、5月から開催する方向でほぼ固まりつつあるようだ。

国立競技場がある新宿区は、何らかの優遇が期待できるような議論もされているため、オリンピックと絡めて、フィールドミュージアムをどう充実させていくのかという議論を本で行いたい。

- 今期のテーマが、オリンピック・パラリンピックに向けての文化振興と決まり、そこからそれを通過点としてレガシーをつくっていくという話に広がり、さらにそれが区の総合計画に繋がっていくということで、非常に長いスパンで、今後の文化振興のあり方を決めていくということになり、非常に素晴らしい。
- フィールドミュージアム憲章、行動指針と書かれているが、具体的な活動に、全て紐づく内容だと良いのではないか。
- 企業メセナ協議会では、オリンピック・パラリンピックに向け、日本全国で文化プログラムを展開・応援しようという活動、「Creative Archipelago（創造列島）」が始まった。具体的には、日本中に創造活動の拠点をつくる、日本の文化・芸術を世界に発信する、芸術文化の発展を経済の発展に生かすといった3つの視点・考え方を目指し、それに基づき、文化的なイベントや助成制度の拡充に取り組もうという活動。
- 提言の3つ目に、新宿フィールドミュージアムの活動を盛り上げるとあり、全体をコントロールしてプロデュースできる人に、素材や要素の組み立て方、方向性を出していただき、具体的なプログラムの構築を期待する。プロデューサーには是非、幅広く新宿全体のことを見据えて取り組んでいただくような、少し自由度の高いお願いの仕方ができると良いし、フィールドミュージアム憲章の策定にも関わりを持っていただけると良い。
- 情報発信について、フリーWi-Fiの設置はどんどん進めていただけると良い。
- ボランティアの制度等報告書（案）に記載されているが、ボランティアだけを組織するわけにはいかない。事例として挙げられている京都市が組織する京博連という市内のほとんどの博物館、美術館、それから私どものギャラリー等が加盟する協議会、そういった文化施設の連携も非常に大切である。さまざまな形でコーディネートや連携が重層的に重なっていくということが非常に重要なので、新宿区でも是非同じように取り組んでいくべき。
- 教育の立場からは「子どもの生きる力と豊かな心を育む」というテーマが非常に重要。
- 年度当初に東京都内の校舎長が施策説明を受ける機会があり、この文化芸術振興というところにオリンピックをもう一度、どう位置づけするかというのが重要だと考えた。
- 今回のこのオリンピック・パラリンピックもそうですが、区の教育委員会にも関わってもらって、教育課程の中に新宿区文化芸術振興会議がさまざまなプログラムを立てるから、しっかりと着目して取り組みなさいと指導することは重要。
- 新宿には、古いものから新しいものまで、素晴らしい芸術的、文化的な資産があるので、いかに子どもたちに繋ぐかということとはとても重要。学校教育の中で時間を取って、みんなで一緒に参加して成果を上げることも重要なので、ぜひ、この提言に基づいて実施していただきたい。
- 文化センターは、論議はいろいろと出ているが、どうするのかがなかなか決まらないまま時間が経っていた。それに対する回答が、今回の提言の中の2つ目22ページの下にそれなりに出ており、これを読んである意味納得、一方でこれからの2年間でこ

れをやらなければいけないのに、大変というのが正直な感想。23ページに赤字で書かれている3点について、もう少し、踏み込んだご提言ができれば良かったという印象を持った。

- 提言の中で非常に具体的で良いのは、3番の新宿フィールドミュージアムの充実。新宿区は、フィールドミュージアムの実績を積み重ね、充実させながら5回まで進んできたという、実に具体的な、中身のある取り組みをしており、それをさらに拡充、完成度の高いものを目指す取り組みであり、非常に期待できる。そこで、理念や指針も決めようということが、憲章等になる。もう少し広く言うと、課題4の情報発信の工夫・多様化への対応も、5の文化芸術活動を推進するための基盤・体制の整備も、基本的には課題1の新宿の文化芸術を振興するための行動指針をみんなで共有し、完成されたものを目指すための枠組なので、課題を3つに分けるかどうかは別にして、こういうことを踏まえながら進めていくということには大賛成である。
- 外国の方にとって、フリーWi-Fiは非常に重要。公共施設、例えば文化センターにフリーWi-Fiがあると確実に人が集まってくると思う。セキュリティの問題もあるとは思いますが、ぜひ実現していただきたい。
- 文化センターの指定管理料を含む年間コストが3億6,600万円というのは、いかにも少ない。その中で事業に充てられる金額は1億円程度と想像するが、そこで77.5%の稼働率をもってしても、なかなかアピールはできないと思う。
- 川崎では指定管理料が倍はある。市から指定管理料が出ているので、いろいろなことができる。コストが4億円弱というのは、大新宿としては少ないのかなと非常に思う。パイプオルガンの件も含めて、そこを獲得できれば何か道が開けるのかなと思うし、さまざまなイベントも開催できると思う。
- 何度も言うが、77.6%の稼働率は素晴らしいことなので、盛り上げていくためには、多少事業費、運営費を上乗せしていただきたい。また、文化センターは、さまざまなジャンルに取り組んでいるのが特色なのだと思う。サントリーホールや新国立劇場、オペラシティと違うところを目指すとなると、さまざまなものに取り組んで、いろいろな人に利用されることが一番の目的なのかと思う。
- 何とかパイプオルガンは存続していただきたい。
- 情報発信の工夫は、一番大事だと思う。知っていただく機会がないとなかなか広がっていかないし、こちらからこういうものを行っていますということがすごく多いが、どんどん広がりを見せていく形にしていかないとなかなか広がらないと思う。自分も参加して、自分も何かやっていきたいというような仕掛けを、これからどんどん考えられるような段階に移っていけると非常に良い。
- 最終的に、文化の取りかかりはどこからでも入っていけるものだと思う。何がきっかけになるかわからないので、さまざまなところにたくさんの種があって、そこからいろいろな人が入っていき、それがどんどん、さまざまな方向に広がっていくことがとても大切だと思う。
- 新宿には本当にさまざまな資源があるので、広がりが期待できるのではないかと思う。
- 新宿フィールドミュージアムが充実し、全体をコントロールするプロデューサー設置の必要性について語られるようになり、非常に嬉しく思う。実際に現場を担う人たち

が、運営に関わってさまざまな企画を上げており、トップダウンでなく、下からのアイデアをきちんと吸い上げてきた積み重ねが、こういった形になってきていると思う。

- 都の生活文化局と話した際に、アーツカウンシルの助成を使ってほしいという話を伺った。私たちでも取り組みやすい50万円位の助成プログラムもあり、利用しやすい内容になってきている。新宿区で、アーツカウンシルの助成プログラムを活用しているのは、神楽坂エリアのみのような。新宿フィールドミュージアム等で活用できると、より活性化してくるのではないかと思う。
- もう少し教育委員会とこちらの文化芸術振興会議が連携して、文化プログラムをもう少しかみ砕いて教育現場に落とし込めるような方策に取り組んでいただきたい。
- 文化センターは、貸し館として成功しているが、公共施設ホールとしては何も発信しておらず、新たな事業も受け身な運営で、非常に歯がゆく、このままでは、豊島のアートのスポットや渋谷に人が流れてしまうのではないかとすごく危機感がある。区として、公共施設ホールをこう考えるというミッションについて、未来を見据えた形で提示していただきたい。
- 新宿区の観光協会が出しているSNS、Facebook 等が非常に充実している。写真も非常に綺麗で頑張っている印象がある。さらにもう一步進めて頑張りたい。
- ボランティアについて考える際には、教育というか、ある程度の品質保証が必要だと思う。
- オリンピックに向けてということで、時期的・時間的制約を利用しているようだが、その内容には、文化財は結びつかない。街中の文化財や地域文化財の発掘・確認とか、主に歴史博物館が中心になって取り組んでいるが、それはそれでオリンピックに関係なくてもやっていかなければならないと考える。
- 観光地として新宿を見る際、主に新宿駅周辺地域や神楽坂地域が取り上げられるが、そういう地域にどんどん人に来てもらおうとしているのか、人がどんどん来すぎて困っているのではないか。
- フィールドミュージアム憲章とは、どんなものができるのだろうかと期待している。この案文は、どこでどのように策定しようとしているか、そのイメージ・内容をお聞かせいただきたい。
- 新宿区にはたくさんの文学者がいるが文学館がないため、この漱石山房記念館というのは、それを兼ねているのではないかと想像をしているが、どういう内容を扱うかは宣伝しているのか。
- 専門部会では、これまでの親委員会のご意見を、できるだけ網羅しようと考えた。
- 議論にはもちろん濃淡があり、例えば憲章は、アイデアは出たが中身は議論があまりされなかった。一方文化センターは百出し、いろいろな方向性の議論をしたため、専門部会では、それを取捨選択するのではなく、整理統合、できるだけ盛り込む形でまとめた。
- 行動指針について憲章という言葉が出たが、中身については触れられていなかったため、忖度した部分をご提案したことになるし、文化センターについてはたくさんの議論が出たが、方向性は固まらなかったため、議論の素材となるデータ、現実的な部分

と、ご指摘された共通項については触れたという形で整理した。

- 新宿フィールドミュージアムは、イベントの開催が最も大きな主眼だが、パンフレットには、博物館もまち歩きもそれから文化財探索も、文化財の保護に関するさまざまな取組みも全て掲載されており、全部ひっくるめてこの新宿フィールドミュージアムの中に含まれていると理解している。
- 情報発信は、かなり具体的なご指摘をいただいたため、それぞれ例示の部分を含めて盛り込んだが、基盤体制の整備については、大事ということは議論で触れられたが、具体的な議論まで到達しなかったため、そこについては専門部会、事務局で知恵を絞ってこの書き方になった。少し議論の濃淡、時間的な喫緊性、緊急性ということで、排除するのではなく、さまざまなご意見を盛り込ませていただいた。
- 報告書について、ある部分は非常に細かいのに、ある部分は抽象的であるとか、ある部分についてはオリンピック以降のことも考えなければいけないのに、ある部分についてはもう待たなしの、総合計画に乗せるとか、そういう形で書き込まれていることに違和感を覚えられるのではないかとということで、9ページでタイムスケジュールを示し、喫緊性を少し整理した。
- 8ページで、4つの項目の上に「文化の祭典としてのオリ・パラ」と表現したのは、せっかくのチャンスなので、これを1つのベンチマークにして、オリ・パラまでに取り組めるものは取り組み、その後につなげることはレガシーとして触れていくという内容。
- 本日の意見も踏まえ少し拡充し、心配ないような形の表現にしたいと考えるが、基本的にはオリンピックに向けてのフィールドミュージアムのところにも入っているし、その後の基盤整備や、民・公・官の連携といったところも当然想定されているし、文化財も当然対象となっていると、理解、整理した。
- 文化財と新しい価値の創造を分けて表現することが多いが、専門部会では、それは連続スペクトラムで考えており、土地の記憶が文化財になり、そしてその文化財を使いながら、また新しい価値が生まれていくと考えているので、連続していると思っている。だからこそフィールドミュージアム。新宿区という土地の記憶、それには文化財も入るが、文化財はかつての時代にまさにつくり出された新しい価値であり、それがずっと連続していくというイメージで捉えているため、フィールドミュージアムの中でも、文化財の部分はとても重要な要素だと思っている。
- 新宿区にあまり人が来なくても良いのではというご意見もあるが、日本は縮退社会になっており、交流人口を拡大して何とか地域を存続しようとしても、それでも存続できない限界集落といわれている集落が何千もあって、ここ10年ぐらいでそれらの半分ぐらいは消滅していくであろうというぐらい、今は縮退していく社会である。新宿区は大東京の中にあり、グローバル都市のため、人口がまだ流入しているし、若い人たちもたくさん来ているが、いずれは高齢化して人口減に転ずることが予測されている。
- 前区長、中山弘子さんが振興会議で、「新宿区は来街者産業で成り立っている区である」と仰った。だからこそ、「私たち区民」ということで、住んでいる方だけでなく、通勤、通学でいらっしゃる方、あるいはショッピングでいらっしゃる来街者の方々も

みんな私たち区民という括りにして、文化振興に携わっていただくということで条例を制定したと理解している。この交流人口を、いかに文化を豊かにするために結びつけていくのか、そして文化を豊かにすることで、お金が落ちる仕組み、交流人口が拡大し、その地域の特に来街者産業が豊かになって、それで地域の経済発展にも結びついていくという循環を可能にするのかは、恐らく日本の中でもごく一部で、新宿区はまさにそういう場所であると理解している。そのため、基本的にはたくさんの人に来ていただいて、にぎわいと文化と地域の豊かさを両立していく方向性が見えてくるのかなと、そういう共通理解の上にこの報告書を作成した。

- 新宿の行動指針としてのフィールドミュージアム憲章の内容について、マネジメント、責任、何らかの到達目標や目的を具体的に作っていく必要があるのではないかと。
- 特にフィールドミュージアムでプロデューサーと契約するのであれば、どこまで、何を、どのくらいの期間でやってもらうのかという仕様を、契約しなければならず、そこが分かるような具体的な方向性や目標値も必要ではないかと。
- 第1回から第5回の実績が記載され、フィールドミュージアム自体の参加団体数とイベント数は増えているが、参加・観覧者数は必ずしも増えていないことが見えている。お客さんがたくさん来れば良いわけではないが、どのくらいの人をどういう形で集め、参加者を拡大していくのかという具体的な方向性も、この憲章の中で少し頭出しをしておかないと、具体的などころに落とし込めないのかなという印象がある。
- 時間的な制約があるため、フィールドミュージアム憲章、それから文化センターについては、次期の委員会の、喫緊の課題として取り上げていただきたい。
- 10ページ、11ページの表で、文化センターは2017年に少しかかるぐらいで短く表示されており、垣内副会長が仰ったように、喫緊にこの運営方針をどうするのか明確にすることで、ハードの問題も自ずとクリアになってくるのではないかと。
- フィールドミュージアム憲章は、行政的に憲章、宣言、指針等いろいろあるが、平和都市宣言のように議会決議を経るようなレベルなのか、あるいは区長決裁で決めるだけのレベルなのか、どこら辺まで踏み込むつもりなのか。
- そもそもフィールドミュージアム憲章を何のためにつくるのか。ご意見を伺って、憲章という名前が良いのかどうか分からないが、従事する人、マネジメント、あるいはプロデューサーなどに対して、こういう方向で取り組みましょうという指針、あるいは実際に活動する際の方向づけになるものとしては必要だ。
- 一つは、活動を発展させるために関係者が共通理解をするための基礎的な土台となるものということで、フィールドミュージアム協議会なり、適当な組織で策定して、区長決裁でいくというサプライサイド向けの考え方。2つ目は、区民にまで向けて発信していく方法で、議会決議になると思うが、議員に文化芸術振興基本条例のほかはこの憲章を策定する必要性の説明や、その後区民に向けて発信する際、区民がどれだけそれをご覧になるのか等の効果やコスパを考えると、むしろ、きちんとしたサプライサイド向けの明確な方向性が示されていれば、フィールドミュージアムはよりくっきり、はっきりしたものになり、それによって区民にとってより分かりやすくなり、現実的。次期の振興会議での意見と、事務局サイドの動きやすさを含め、より実効性の高い方向性で決めていくのが良いのではないかと。

3 事務連絡等

次回の会議は、9月頃を開催予定とし、日程や会場については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午前12時に閉会した。